ダンダラボッチも恐れた大王埼灯台

無敵の巨人だって怖いものは怖い！

取材・文
青柳日奈子

協力
江﨑貴久（有限会社オズ（海島遊民くらぶ））

関連する海ノ民話アニメーション
鳥の海
秋田県・横手市

全国各地にあるダンダラボッチ伝説の中でも、三重県のダンダラボッチは海から現れて、悪事を働く厄介者。もしも、“彼”が現れたとしたら、私たちは対処できるのだろうか。大丈夫、行き先を照らす“彼女”がいるから……。

「ダンダラボッチ」といえば、何を思い浮かべるだろうか。多くの人々は、『もののけ姫』（1997年公開）の「デイダラボッチ」や『妖怪ウォッチ』（2014年テレビ放送）の「だいだらぼっち」を想像するかもしれない。こうした作品で描かれるダンダラボッチは、山や森に住んでいる。

一方、三重県に伝わるダンダラボッチは一味違う。かの地では、「（海で）夜に魚を捕ってはいけない。ダンダラボッチに会うからね」といわれる。そう、三重県のダンダラボッチは海にいるのだ。

荒海に現れるダンダラボッチ

三重県志摩市の沿岸部にある大王町（だいおうちょう）。その町に立つ波切神社（なきりじんじゃ）には、一つ目の巨人、ダンダラボッチのこんな伝説がある。

昔、大王町沖の大王島（だいおうじま）に一つ目の大男が住んでいた。この大男は日が暮れると陸に上がり、村を荒らして娘をさらう悪行三昧。村の人々は大男を恐れながら毎日を過ごしていた。

ある時、村娘は魚を捕るための大きな網を編んでいた。そこへ大男がやって来て問いかける。

「それは何だ？」

娘は一つ機転を利かせる。

「これは村主のワラジです」

これを聞いた大男は、おびえ始めた。このワラジは明らかに自分の物よりも大きい。つまり、自分よりも大きい村主が存在しているということ。このまま悪さばかりしていては、いずれ村主から罰を受けるかもしれない。

大男はすごすごと大王島へ逃げ帰り、それ以来二度と現れなくなった。

――これが三重県に伝わる物語である。そして、このダンダラボッチ伝説は「祭り」という形で現代まで受け継がれている。

毎年９月に入ると、大王町では縦３メートル、横１メートルにもなる巨大ワラジの制作が始まる。豊漁祈願と海上安全を願う「わらじ祭り」を開催するための準備である。

完成したワラジは波切神社に奉納され、その御前で稚児による舞が披露される。神事終了後、ワラジは海へと移動し、老人の祝い唄と共に大王島付近へと放たれる。

不思議なことに、放流したワラジが再び浜辺に戻ってくることはいまだ一度もないという。

大王町を取り巻く二つの災い

ダンダラボッチの正体は既に考察されている。海を荒らして人をさらう一つ目の巨大な怪物。その正体とは、「台風」である。太平洋に面した三重県では、台風による被害を受けやすい。昭和 34（1959）年に発生し、全国の犠牲者数が 5000 人を超えた伊勢湾台風でも、三重県の死者数は全国第 2 位であった。近年では、令和 6（2024）年の台風第 10 号が記憶に新しい。

伝説上では、自分よりも大きい人間に恐れおののくダンダラボッチ。しかし、実際にははるかに狂暴な一面を持っていたのだ。

人々にとって脅威はダンダラボッチ（台風）だけではない。大王町の沖合は、熊野灘（くまのなだ）と遠州灘（えんしゅうなだ）が交わる海の難所である。荒れ狂う波は、幾度も船乗りたちに恐怖を与えてきた。大正 2（1913）年にはサンマ漁船が沈没し、51 名の命が一瞬にして失われるという事故が起きている。

「大王の沖で難破しても船主は船頭にその罪を問わない」と、大王埼灯台（だいおうさきとうだい）の石碑に記録されている。このような言い伝えが生まれるほど、船乗りたちは恐れ、救いの光を求めていた。

海の守護者、大王埼灯台

大王町の沖では、二つの激しい海域がぶつかり合い、事故が多発する。そのためかねてから灯台の必要性が叫ばれてきた。

建設計画が持ち上がったのは、明治 17（1884）年だった。だが、本格的な工事が始まる前に、2 度の大きな海難事故が起きた。ますます灯台の建設が急がれる中、大正 12（1923）年に関東大震災に見舞われ、各地の灯台が倒壊した。その復旧作業に 3 年の月日を費やし、計画はまたもや足踏みすることとなった。

結局、大王埼灯台が完成したのは最初の建設計画から 43 年後の昭和 2(1927)年の 10 月だった。やっとのことで建てられた大王埼灯台の高さはおよそ 22.5 メートル。荒波のような白色をした塔は、さまざまな障壁を乗り越えて大王埼にそびえ立ち、現在も海に光を投じている。

“彼女”は今日も一点を照らし続ける。巨人が潜む、あの大王島を。

1 | 2
3 | 4

1 / わらじ祭りにて作られた巨大ワラジ。 2 / 角波切神社本殿。 3 / 大王埼灯台。 4 / 大王島(写真中央の奥に見える岩)。